

授業概要

エドガー・アラン・ポーを中心として、英語圏のゴシック小説の傑作を分析する。ときにその映画化作品も同時に議論してゆくことで、「読む」という行為を拡大し「分身」というテーマの意味を考察する。また、それらの文学が書かれた文化的背景に迫ると同時に、文学を通じた他者理解を目指す。

授業計画

第 1 回	文学とは何か アメリカ文学におけるアポカリプス
第 2 回	文学の現代性—J.D.サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』
第 3 回	文学の現代性—トルーマン・カポーティの『草の豎琴』
第 4 回	エドガー・アラン・ポーとは何者か—『推理作家ポー』における作家イメージ
第 5 回	ポーの「ウィリアム・ウィルソン」論—古典的分身物語
第 6 回	ポーの「モルグ街の殺人」論—猿の反逆・奴隷・分身
第 7 回	ポーの「群衆の人」—推理小説の誕生
第 8 回	ポーの「使い切った男」—人造人間の文化史
第 9 回	ハーマン・メルヴィルの『白鯨』論—モビィ・ディックとエイハブ船長
第 10 回	推理小説の文化史—ホームズと『斑の紐』『四つの署名』
第 11 回	ラフカディオ・ハーン—多文化的妖怪の文学
第 12 回	H・P・ラヴクラフトのゴシック小説
第 13 回	スティーヴン・キングの『ダーク・ハーフ』論 — ベストセラー作家と分身
第 14 回	スティーヴン・キングの『ミザリー』『シークレット・ウィンドウ』論 — 作家三部作
第 15 回	スティーヴン・キングの『It』論 —トラウマとの対決
第 16 回	定期試験

到達目標

分身というテーマに従ってアメリカ文学を中心に英語圏の文学を読むことで、これらの作品が書かれた文化的背景に迫ると共に、中学校及び高等学校における外国語科の授業のための異文化理解への助けとする。

履修上の注意

マナーを尊重して楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。資料を配布するのでファイルを持参のこと。時に恐怖を描く映像を見ることがあるので、苦手な人は注意してほしい。できるだけ普段から関心をもって本を読むように心がけてもらいたい。

予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

評価方法

学期末試験（60%）、提出物（レポート）およびコメントペーパーや受講態度（40%）などの総合評価。

テキスト

- 教科書名：『エドガー・アラン・ポーとテロリズム—恐怖の文学の系譜』
- 著者名：西山智則
- 出版社名：彩流社
- 出版年（ISBN）：2017年(978-4-7791-7090-4)